

行政と連携したJAによる柑橘担い手育成

- 宇和島地域は、全国でも有数のかんきつ産地であり、かんきつ農業が主要な産業になっているが、農業者の高齢化や新規就農者の減少等により、担い手が減少。
- JAえひめ南では、県や市・町などと連携し、新たな担い手を養成するみかん学校など就農支援体制を整備。
- 就農研修の実施とともに、園地の取得や機械の整備など、就農を支援。

【位置図】



愛媛県宇和島市・愛南町

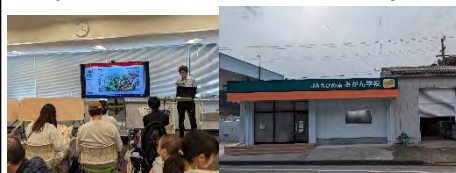
取組前

- 宇和島地域の柑橘栽培面積は2,371ha、生産額が118億円で全国でも有数の産地
- しかし、近年は担い手の高齢化が進み、共選出荷者も年20人程度減少
- 柑橘産地は、他の品目に比べ若い農業者も多かったこと等から就農支援対策が遅延



取組内容

- R5年度は、市町など関係機関と連携した担い手対策会議を年2回（2カ所）開催するとともに、就農相談活動を実施。また、宇和島市で就農を支援するみかん学校（研修農場）を整備
- R6年度からは、就農研修生受入れ、実践研修を実施するとともに、農地の取得など就農支援を実施
 〔研修生の新規受入
 R6:5人、R7:4人〕



取組後(成果)

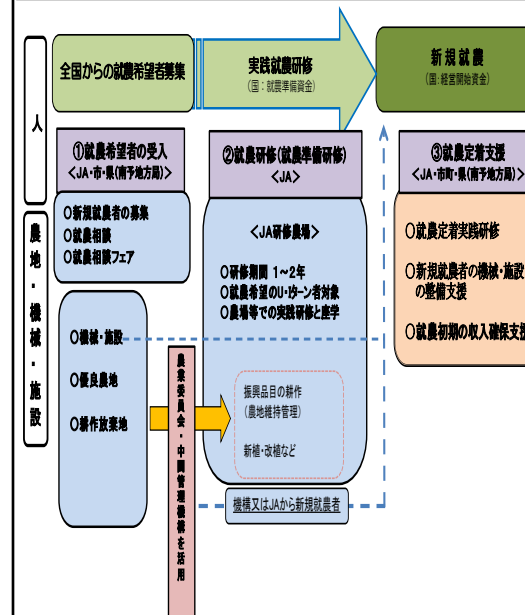
- 県や市町が連携し、柑橘の担い手を養成するJAの研修農場の整備とともに、支援体制を確立できた。
- 令和7年度の研修修了者4人が就農（うち新規は3人）
- 新規就農者の養成活動により離農農家等の園地を就農希望者へ橋渡しができるようになった。

新規就農者数
過去3年平均(R2～R4) 9人
→R5:7人、R6:11人



【サポート体制】

JAえひめ南担い手養成研修



新規就農者や研修生の声

- 1年間、研修農場で学ぶことで、必要な作業を理解することができた。また座学等で基本的な技術や知識、経営についても学ぶことができた。
- JAを通じて就農農地も取得でき、円滑に就農できた。
- 天候や鳥獣害に振り回されることもあるが、農業は魅力がある。

サポート体制構築事業 活用年度：令和5年度

【問合せ先】えひめ南農業協同組合 営農部 営農指導課
 TEL：0895-22-8151
 E-mail：shien@ja-eminami.or.jp